

先号までと同様に、ユニオンプレスでは、教職員の労働環境、および、埼玉大学をめぐる重要課題について特集記事を組ませていただきます。第4回の本号では、「任期付き」教員をめぐる問題について検討します。大学本部は大規模な定員削減計画を掲げていますが、この削減計画のなかで、任期付き教員の方々は、日々、不安な精神状況のなかで、教育研究活動にあたられています。同じ埼玉大学に働き、日々、学生や教職員のために一生懸命働かされている任期付き教員の方々のおかれている実態を少しでも認識し、大学の削減計画を考える一助としていただければと思います。また、末尾にて本年度第2回目の団体交渉の内容をご報告いたしますので、ご参照ください。

元書記のつばやき

第4回

特集 第4回 任期付き教員の不安

任期付き教員となった喜びと・・・

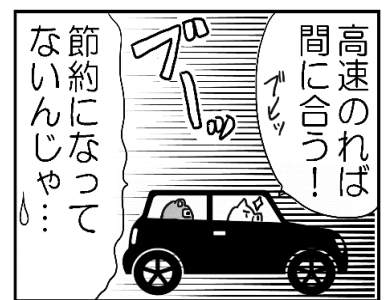
博士論文を執筆しながら、新米教員として非常勤の仕事を掛け持ちしていた時に、埼玉大学でも非常勤として教える機会をいただきました。素晴らしい学生と出会い、学ぶことが多い充実した時間を過ごしながらも、来年度の予定が分からず不安に思っていた2学期目の終わりの頃、幸運にも埼玉大学で4年間の任期付の職に就くことが決まりました。それまでは、社会保障もなく、翌年に仕事があるかどうか分からない不安定な非常勤講師という立場で、研究をするにも時間もお金もない状況でしたから、4年間とはいえ、経済的に安定した仕事を頂けたことには、とても感謝しています。その気持ちは、今でも変わりません。それでも、着任した4月1日に「4年後には任期を更新しない」というようなことが書かれた書類にサインをした時に、「4年後どうしよう・・・」と感じた不安は、今でもはっきりと覚えています。

常勤教員と変わらぬ多忙な日々

着任した年は、任期のことなど考える間もなく、ただ一生懸命に日々の仕事をこなしていました。授業以外にも、学生対応が必要な業務を担当していたので、忙しい時期になると毎週何時間も学生と面談をしていました。予想外だったことのひとつは、非常勤の時と比べてコマ数が減ったにもかかわらず、様々な業務に忙殺されて、自分の研究の時間が取れなかったこと。授業がない夏休み期間は、少しは研究に集中できましたが、それでも思うようにははかどりませんでした（人一倍、要領が悪いせいでもあります・・・）。

そうこうしているうちに、年末です。年があげると、センター試験。私が採用された時の条件は「入試業務はなし」でした。そうは言っても、人員不足。私にもセンター試験の業務がまわってきました。2年目以降には、採用された時には担当しないことになっていた業務（主に、入試関係や委員会）も増えてきました。人員不足ならば役に立ちたい、という気持ちもありまし

「正しい節約？」



たし、純粋に任期付の教員である私にも仕事を任せたいと思ってくださった(か、どうかは分かりませんが)ことは嬉しく思いましたので、お引き受けしました。同時に、任期付教員という不安定な立場上、断れない、というプレッシャーも、もちろんありました。

任期終了への不安

着任した時に「残念ながら任期付のポジションなので、ぜひ研究も頑張って、次につなげて下さい」と言われていましたので、教育だけではなく、研究も頑張らないと！と、気持ちだけは張り切っていました。仕事にも慣れてきた2年目からは、「次に繋がるものが何もない・・・ヤバい」と、思うぐらいの余裕は出てきました。が、心と時間の余裕は、結局あまり作ることができませんでした。そして、研究成果も出ていないのに、就職先あるかな・・・、なかったら、以前に非常勤をしていた大学に、もう一度お世話になれるかな・・・、また非常勤生活に戻ったら、どうやって研究するんだろう、奨学金返せるかな・・・?という不安を常に抱えていました。大学での仕事は概ね充実していましたが、ふとした時に、いつまでこの研究室を使えるのかな、とか、この学年が卒業する年には、私はどこにいるのかな、などと考えることもありました。

組合のもつ意味

私は4年間の任期を満了する前に、埼玉大学で任期なしの常勤職に就くことができました。これは、ひとえに私のことを支えてくださった同僚の先生方、特に組合の活動に積極的に参加している先生方の存在が大きかったのではないかと考えています。要領の悪さは相変わらずですが、先の見えない任期付、あるいは非常勤という立場にいらっしゃる教職員のみなさんのお気持ちは理解しているつもりです。すべての教職員の労働環境が改善するように、微力ながら私も働きかけていきたいです。

(元任期付き教員)

★本年度第2回団体交渉を行いました★

7月22日(金)、今年度2回目の団体交渉を行いました。今回は、教員数・職員数の削減計画が議論の対象です。6月に教員定員の削減計画が公にされましたが、その際の学長の説明は十分でなかったと組合では考えています。人件費以外の支出削減でどう努力しているのか、事務職員・技術職員の削減計画の詳細はどういうものか等、なお明らかにされるべき点が多々あったと言わねばなりません。そこで、計画の全容と根拠に関し、さらなる資料と説明を求めて団交を申し入れた次第です。当日、学長は全学予算委員会の資料を提示しながら、各部局予算の「見える」化をはかったことを強調し、また、役員の昨年度期末手当の増額(0.1月分)を差し控えたこと、職員の仕事を考える業務改善プロジェクトチームを立ち上げたことなどを述べました。組合からは、財務諸表に見られる剰余金の使途などを問うたほか、何よりも学内構成員への十分な説明(特に学部・研究科教員以外の人たちに対する)が必要であること、そして事前に労働側の意向をもっと聞くのが筋であること、を訴えました。影響の大きな問題であり、今後も交渉やこの紙面で取り上げていく予定です。

埼玉大学教職員組合

〒338-0825 さいたま市桜区下大久保 255

E-mail : saikyoso@gr.saitama-u.ac.jp URL : <http://kumiai.client.jp>

TEL / FAX : 048-853-5609 内線 : 3160

組合事務室は第2生協1F 開室時間 : 月火水木 12時~17時

